

中学1年生による小学校英語活動に対するとらえ方について

— 書く活動の有無と開始学年による意識の違いについて —

石原 義文

本研究では中学1年生が小学校で経験した英語活動をどのように認識しているか、さらにはそれが中学校での英語の授業にどのように活かされていると感じているかを調査したものである。特に、5年生から英語活動を行った生徒とそれ以前から行った生徒、「簡単な英文を書くこと」を経験した生徒と、書く活動をしなかった生徒との比較を行い、中学校英語に対する影響を報告する。

1. はじめに

平成23年より、公立小学校では高学年の生徒に対して、外国語活動が導入されている。¹⁾「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」(文部科学省 2008a) とあるように、文字の導入は児童に抵抗感を持たせるということで補助的な扱いとなっている。次期学習指導要領では英語が小学校高学年で教科となることになった。²⁾「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(中央教育審議会答申 2016年12月21日)によると「中学年から『聞くこと』及び『話すこと』を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達段階に応じて段階的に『読むこと』『書くこと』を加え、総合的・系統的に扱う学習を行うことが求められる。その際、これまでの課題に対応するため、新たに㊦アルファベットの文字や単語などの認識、㊧国語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き、㊨語順の違いなど文構造への気付きなど、言語能力向上の観点から言葉の仕組みの理解などを促す指導を教科として行うために必要な時間を確保することが必要である」とあり、「書くこと」が高学年から導入されることとなった。

しかしながら、小学校での学習がこれまでにどのように行われたか、特に現在小学校でどのように「書く」という活動が採用されているのか、書く活

動を経験したことが、児童生徒にどのようにその後の学習に影響を与えるのかについては、中学校現場ではよく把握されていないのが実情であると思われる。さらに、英語活動開始時期も学校によって均一ではない。それらの相違によってどのように意識に差が出るのかもアンケートによって調査することにした。

2. 調査方法及び結果

調査は広島大学附属中学校1年生128人を対象に12月初旬に行った。アンケート用紙を用いて生徒には小学校時代の英語学習を振り返って答える。

(1) 小学校での英語活動について

下表は「小学校で行った英語活動」とそれを経験した生徒の割合である。

表1 小学校での英語活動

ゲーム	歌	会話	英文法
89.8%	82.0%	83.6%	15.6%
英文音読	英文を読んで理解する	英単語を書く	英文を書く
51.6%	25.0%	33.6%	28.1%
英語で自分の考えを書く	CD, DVD等で英語を聞く		
13.3%	63.3%		

小学校5年生から英語活動を行ったものが52% (n=67)、4年生からが20% (n=26)、3年生からが6% (n=8)、1年生が19% (n=24)である。

小学校時代の英語活動についての意識を5スケールのアンケート(1=全くそう思う[QA] 2=そう思う[A] 3=どちらでもない[N] 4=思わない[D] 5=全く思わない[QD])の平均値とそれぞれの人数割合をとった結果以下の表1のようになった。

表2 小学校での英語学習について

【質問項目】

- (1) 小学校で英語を勉強するのはよいことだ
- (2) 小学校での英語学習は楽しかった
- (3) 英語は他の教科より難しかった
- (4) もっと英語を勉強したいと思った
- (5) 英語を話すのは楽しかった

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
平均値	1.9	2.5	3.4	2.4	2.6
QA	43.8%	25.8%	9.4%	28.1%	20.3%
A	32.0%	30.5%	17.2%	28.9%	26.6%
N	15.6%	20.3%	23.4%	21.9%	31.3%
D	5.5%	10.9%	28.9%	12.5%	17.2%
QD	3.1%	12.5%	21.1%	8.6%	4.7%

質問項目(1)(2)(4)(5)について、平均値は3.0以下を示しており、(3)の英語が難しいということについては3.4で否定的な傾向がある。全般的に小学校時代の英語の活動について肯定的な意識を持っていることがわかった。

さらに「英語が上手になりたいと思っていた」に対しては、平均値1.9[QA] 45.3%[A] 28.9%となり、英語に対する興味と動機づけは非常に高く、小学校英語での影響は大きいことがわかる。

中学入学以前の英会話スクール、学習塾などの学校以外での英語の学習の経験者は45%である。本校は入学検査を経て入学を果たしている生徒たちであり、家庭的にも教育熱心であたため、英語に対しても熱心な保護者が多いと思われるが、次期学習指導要領で英語が教科として採用されるとなると、全国的にも益々学校外での英語学習熱が高まることが予想される。

(2) 書く活動との関連

「書くこと」について、更に細かく、経験した活動を聞いてみると、以下のようになった。

- ・書く活動はなかった 22.7% (n=29)
- ・アルファベットを書く 15.6% (n=20)
- ・英単語を書く 21.9% (n=28)
- ・簡単な英文を書く 34.4% (n=44)
- ・自分の考えを英文で書く 8.6% (n=8)

英語活動を始めて書く活動が無かった小学校出身の生徒(n=29)と、「簡単な英文を書く」ことを経験した小学校出身の生徒(n=44)について、と5年生から始めた生徒(n=67)と5年生以前から始めた生徒(n=38)のアンケートの結果をみってみる。

本校では、中学入学以前に課題として、ペンマンシップを配布して、アルファベットに親しめるようとして、入学後はまず簡単な挨拶や、定型表現などを学習して音声から入り、その後文字に親しめるように、ローマ字や、身近な単語を見て言えるようすることから始める。中学に入学したころの授業についての感想を尋ねる。

表3 中学での授業に対する意識

- (1) 新しいことを習って楽しかった
- (2) 小学校で経験したことが多いので安心だった
- (3) 小学校の繰り返しで退屈だった
- (4) 小学校と教えることが異なるので戸惑った
- (5) 難しかった
- (6) 周りの人がよく理解しているようで不安だった

項目	書く活動無	書く活動有	5年生から	5年生以前から
(1)	41.4%	31.8%	46.3%	29.8%
(2)	6.9%	20.5%	7.5%	25.5%
(3)	0.0%	6.8%	4.5%	10.6%
(4)	24.1%	11.4%	16.4%	10.6%
(5)	34.5%	20.5%	32.8%	19.1%
(6)	24.1%	22.7%	29.9%	27.7%

書く活動を経験した生徒は、活動経験の無い生徒よりも、中学校での授業において(2)安心感を多く感じており(4)戸惑いを感じる生徒も少ない(5)困難さを感じる生徒も少ないことを示している。5年生以前から英語活動を始めている生徒も同様の傾向を示している。

(3) 小・中の相違

中学校での授業と小学校授業との違いについて自由記述を、書く活動無しと書く活動有の生徒について内容的に分類してその人数を示した。

(実際の記述事項は資料を参照)

<書く活動なしの生徒>

- ・書く活動がある 26人
- ・文の構成を習う、文法的な学習 18人
- ・中学は教科として本格的になった 7人
- ・単語を覚えないといけない 7人
- ・テストがある 2人

<書く活動ありの生徒>

- ・文の構成を習う、文法的な学習 12人
- ・書くことが多くなった 6人
- ・中学は教科として本格的になった 5人
- ・単語を覚えなといけない 5人
- ・難しくなった 3人
- ・テストがある 2人

当然のことながら、中学校に入って初めて導入された書く活動に対して、小学校との違いを感じ取っている一方、書く活動の経験のある生徒は、「書く量が増えた」「内容が深くなった、難しくなった」等の授業の内容に関することを記述するものが増えている。

(4) 中学校英語についての意識

前記の、書く活動の経験者と、書く活動の経験の無い生徒、英語活動が5年生から始まったものと、それより以前に始まった生徒の結果をしてみる。アンケートは5スケールでの平均値を提示する

- (1) 小学校での英語の授業経験は中学校での学習に大いに役立っている
- (2) 中学校での英語の学習は小学校よりはるかに難しくついていくのが大変だ
- (3) 英語の学習が楽しくなって興味深くなって来ている
- (4) 小学校での英語学習が、英語を発音するのに役立っている
- (5) 小学校での英語学習が、英語を聞いたり話したりするのに役立っている
- (6) 小学校での英語学習が、英文を読むのに役立っている
- (7) 小学校での英語学習が、英文を書くのに役立っている
- (8) 英語を学習するのは楽しい
- (9) 英語は重要な教科である
- (10) できるかぎりたくさん英語を学びたいと思っている
- (11) 英語は嫌いだ

項目	書く活動無	書く活動有	5年生から	5年生以前から
(1)	3.69	3.00	3.43	3.09
(2)	2.41	2.91	2.40	2.89
(3)	2.48	2.34	2.54	2.43
(4)	3.14	2.86	3.01	2.72
(5)	3.24	3.02	3.52	2.72
(6)	4.10	3.16	3.87	2.91
(7)	4.52	3.16	4.10	3.15

(8)	2.76	2.34	2.49	2.60
(9)	1.45	1.57	1.52	1.55
(10)	2.00	1.91	2.03	2.09
(11)	3.21	3.64	3.36	3.47

- (1) について、書く活動を行った生徒は、平均値としては、中学校での学習に対して、小学校での英語活動の影響はどちらでもないと答えているが、書く活動をしなかった生徒は、小学校での活動は中学校での学習には役に立っているとは思えないと思う傾向があるようである。
- (2) について、書く経験の無かった生徒は中学での学習を難しく感じている生徒が多いことがわかる。また、5年生から始めている生徒と、それ以前から始めている生徒も前者の方が難しく考えている生徒が多い。
- (3) について、中学での学習についての興味は持続していることを示していると思われる。
- (5) について、5年生以前に学習を始めた生徒は、聞き話す活動に対して、小学校での活動が役立っていると感じる生徒が多い。
- (6) については英文を読む活動についても、書く活動の無かった生徒は、小学校での活動が役に立っていないと感じている。5年生以前から学習を開始している生徒が、読みについて肯定的な意見を持っていることと大きな違いがある。小学校時代に書く活動があるということと、英語に触れる期間が長かったことが文字に対する関心を深めるとともに、読みにもよい影響が出ていると推測される。
- (7) については、当然書く活動の無かった生徒の反応として、否定的になるとなる。一方、書く活動の経験のある生徒も、否定的なものも多くいるが、それは中学校での学習が、学習が深まっていることへの意見と思われる。
- (8)(9)(10)は、英語学習に対する意識を聞いたものである。12月初旬のアンケートであるが、学習に対する興味と、動機付けが持続されていると思われる。

3. 考 察

自由記述の中で、中学校に入って小学校での英語活動と異なるところは、教科として本格的になったこと、文の構成や文法などを勉強するところ、と多くが答えている。筆者の経験上、上記のような事柄が英語嫌いを作ってきた一つの要因と考えてきたが、1年の2/3を経ても、学習に対する意欲が持

続している。これは小学校時代に小学校での英語経験を通して覚えていた英語を、中学校に入って文の構成や文法的な見方を学んで理解が深まるという流れが好影響を及ぼしていると推測される。

今回は、小学校時代に「簡単な英文を書く」という活動の有無と、5年生からと5年生以前からという分類で生徒の意識を調査してみたが、小学校時代に「書くこと」の活動を経験していない生徒は、中学校に入って見て、小学校の英語活動が役に立っていないと考える傾向があること、5年生以前から英語に関わってきた生徒が、中学校での学習に、読み・聞き・話し・書くという4つの技能について、いずれも小学校での英語活動が役にたっていると答える傾向があることがわかった。また、そのような経験があっても、中学校での初期の学習が、また基礎の繰り返しという退屈な場とはなっておらず、安心感になっていることがわかった。

次期学習指導要領に英語が教科となり、英語活動が小学校中学年へと移行することとなった。英語科となって、これまで聞く・話すを中心となってきたものに、読み・書きが加わることとなる。高学年の児童に音声のみで活動をさせることには、児童の認知能力の発達からも、児童に学習達成感を失わせる結果になったという声も多く聞かれたが、書くことが本格的に導入されることは、本稿のアンケート結果からも望ましいと言える。中学校初期段階で一気に文字を導入した詰め込みで負担感が増すよりも、小学校段階でのゆったりとした学習を経ることで、より定着が図ることができ、生徒も余裕をもって中学の授業に臨むことができると考える。

中学校では小学校での指導内容を把握し、これまで通り、入学後に再度基本からやり直しつつ、文法的な内容を加味していくことで、生徒に小学校との違った英語授業の新たな段階に入ることを意識させることができるのではないだろうか。

今回は生徒の英語の熟達度は考慮しなかった。小学校での英語活動の有無が成績に影響を与えていないことは³⁾(青木・井長 2016)で報告されているが、これは小学校では様々な英語表現がそれほど身に付いていないことを意味している。ある程度小学校で学んだ文字を通して見て、文法的な内容や文の構成を学び、さらに発展した独自の英文を作り出し、コミュニケーションが達成した実感を与えていくことが中学校英語の役割になると思われる。

参考文献

- 1) 文部科学省, 「小学校学習指導要領 第4章第1目標, p.95 (2008年3月)
- 2) 中央教育審議会答申 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」 pp.198 (2016年12月21日)
- 3) 青木基容子・井長 洋「小学校での英語学習経験が中学入学後の英語学習に及ぼす影響について」 広島大学附属中・高等学校中等教育研究紀要第62号 pp.43-58, 2016. 3

資料

アンケート自由記述

「小学校英語と中学校英語の一番違うところはどこですか」

<書く活動なしの生徒>

- ・自分で英文を書くこと
- ・英文を書くこと 勉強に関係ない歌を歌うこと
- ・小学校の先生はオール英語。中学校は英語 + 日本語
- ・立ち歩いてどうのこうのということがほとんどない 宿題がある
- ・小学校の頃は1文1文丸覚えで使っていたが、中学校では1単語ずつ理解して覚え、組み合わせて使うこと。小学校ではスペルをほとんど書かないが、中学校ではスペルを習う
- ・小学校では英文の構成を習わず簡単なあいさつなどしか習っていないが、中学校では習った。
- ・小学校の方がゲームが多かった
- ・英文を書くこと (小学校では単語しか書かない)
- ・詳しく文法の説明があるところ
- ・英文や単語を書くか書かないか。テキストを使うか使わないか
- ・立ち歩いてゲームをしたりすることが無くなった
- ・小学校はお遊び程度だったが、中学校は本気だ
- ・文法的な理解を必要とするところ
- ・小学校は遊びだけだったけど中学では勉強という面が表に出ていること
- ・英文を見て聞いて意味を理解するところ
- ・英単語や英文を書くところ
- ・単語を習う スピードが速い 英文を習う 教科書を使う プリントが多い
- ・文法を本格的に勉強し始めたこと
- ・中学校は本格的に真剣に取り組める 楽しくて仕

方ない歌を歌うのは分かりやすいし授業に入りやすい

- ・英文の筆記
- ・小学校の頃はゲーム感覚が多かったが、今はあまりないところ 授業中に英語で会話する機会が多いこと
- ・単語を書く 覚える
- ・英語を書いて学習したり、動詞や形容詞などの難しい言葉を使って英語を理解するところ
- ・テストがある
- ・小学校は単語中心で中学校は会話中心
- ・小学校は文法や単語を読んだり書いたりしなかったが、中学ではやる
- ・小学校はいわば文法を無視したむちゃくちゃ英語だった。文法も考え単語のスペリングも覚え、聞き取るなどは大変だが興味はある
- ・板書するところ
- ・ゲームの多さ
- ・中学校では書くことが中心になっている
- ・筆記がある
- ・書くこと テストがあること
- ・難易度 英文や単語を書くかどうか
- ・書くことが多くなった
- ・英文を書く
- ・文法を習うこと
- ・単語を覚えるところ
- ・単語を覚えなといけない 文法を習う
- ・小学校では英語を話すだけだったけれど、中学では文法を習って文を作っていく点
- ・小学校のときは1つの疑問文をテーマにして友達に聞いて回るという1問1答形式だったのが、会話を続ける・のが目標になったこと
- ・スペルを覚えなといけない
- ・中学校では書くことが中心になっている
- ・文法を学習する
- ・英語をたくさん書くこと
- ・質
- ・英文などをたくさん書くようになった
- ・書くこと
- ・英文を書くこと 単語のスペルを覚えること
- ・文法 小学校のときは遊びだったけど中学校は授業になっている
- ・文章を書くこと
- ・文法を学ぶか学ばないか
- ・全体的に発展した 自ら文を作成する機会はなかった
- ・小学校では先生が細かい文法の説明をしたりすることは殆どなく、ゲームやリポートなど遊びなが

ら学習するよう感じだったけれど、中学では単語や文法について暗記したり細かい説明があったりして、実際に書くことが多い

- ・クラスの人と英語で話をしてゲームをする機会が少ないこと。英語について文法などの説明がたくさんあること
- ・書くということに重大さを感じる
- ・教科書がある
- ・文法的なことが増えた
- ・内容が難しくなった
- ・中学では英文法を習うけど小学校では文のだいたいの形を覚えて一部だけ別の単語にして意味を変えてたくさんやっていた
- ・小学校では英文を読んだり書いたりすることはなかった 小学校ではゲームなどで英語になれることを主にやっていたが中学では本格的に変わった
- ・小学校は勉強と感じさせられないゲームのようなことをしていた
- ・文法の説明がある 読む 書く

<書く活動ありの生徒>

- ・深く勉強しなくてはならない
- ・文法をしっかり学ぶようになった
- ・英文を書くこと 勉強に関係ない歌を歌うこと
- ・英文を書く 文を書く
- ・立ち歩いてどうのこうのということがほとんどない 宿題がある
- ・詳しく文法の説明があるところ
- ・書くことが増えた ゲームが減った
- ・小学校のころはほとんどがゲームで話してばかりで、文法などはあまりやらなかったけど、中学では文法や単語をしっかりとやっている
- ・小学校のころは話してばかりで、あまり書かなかったが、中学に入ってから書くことが増えた。
- ・問題を解く量が増えた
- ・文法について習うところ
- ・小学校は遊び感覚で中学校はまじめな勉強になったと感じる
- ・文法のことを詳しくする
- ・小学校の頃はゲーム感覚が多かったが、今はあまりないところ 授業中に英語で会話する機会が多いこと
- ・日本語に変換したりするところ
- ・単語を書く 覚える
- ・英語の文法を多く教えられること
- ・テストがある
- ・小学校は単語中心で中学校は会話中心

- ・小学校からネイティブだった 文法を理解して書く 朝と帰りに words and phrases 的なことをしていた
- ・プリントと辞書で和訳したり，活動自体が英会話中心だったけど，中学校は英会話よりも文法的なことが多い
- ・単語の意味や文法を習うこと
- ・ちゃんと中学校では意味を理解できるように教えてもらえるところ
- ・英文を書くことが重視されている
- ・中学校の方が先生と生徒の一体感がない
- ・全体的に発展した 自ら文を作成する機会はなかった
- ・小学校では1年生からネイティブの先生でアルファベットもかけないのに全部英語で話したから，小学校を卒業してもアルファベットが全部書けなかった。だけど中学では日本人の先生で，文法から教えてくれたから，英語ではテストで満点を目指せるようになった
- ・机に座って受ける授業が増えた
- ・中学は英文法など 小学校は英語に触れる感じ
- ・英文の意味を文法をつなげて考える
- ・小学校は話すことをしていたが，中学では書くことが中心になっている
- ・教科書がある
- ・文法的なことが増えた
- ・暗唱など，何も見ずに長文を話さなければならぬこと
- ・内容が難しくなった
- ・中学では英文法を習うけど小学校では文のだいたいの形を覚えて一部だけ別の単語にして意味を変えてたくさんやっていた
- ・単語より文の学習が多い